

人間論 [英]				【単位数】	2単位
授業コード	10005	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	崎川 修、岡田 紅理子、橋本 晶子、山根 道公				
時間割備考	1年次 英文対象				
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)					
本授業の概要					
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー45%			1/2	
2	期末レポート55%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：「人間論」で何を学ぶか 2. 特別講義：聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） 3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司） 4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（橋本・岡田） 5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（橋本・岡田） 6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（橋本・岡田） 7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（橋本・岡田） 8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根） 9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根） 10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根） 11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根） 12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川） 13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川） 15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川） 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 (予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれによって資料を読んでおく。(30分) (復習) 講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。(30分)</p>
<p>必携書（教科書販売） 『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）, 日本聖書協会, ISBN978-4-8202-1202-7</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 〈必携書〉 『新・私たちの人間論』 ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）, 大学教育出版, 2022年 （初回授業で販売予定。詳しくは新入生オリエンテーションにて説明する）</p>
<p>オフィスアワー 授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。</p> <p>sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根） akiko.hashimoto.sa@gmail.com（橋本）</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3回目の授業は、学部合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、4名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回アクションペーパーに意見・質問等を記入してもらおう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論 [人]				【単位数】	2単位
授業コード	10015	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	崎川 修、岡田 紅理子、橋本 晶子、山根 道公				
時間割備考	1年次 人間対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー45%			1/2	
2	期末レポート55%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：「人間論」で何を学ぶか 2. 特別講義：聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） 3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司） 4. キリスト教的人間理解①キリスト教を学ぶ（橋本・岡田） 5. キリスト教的人間理解②聖書の基本理解（橋本・岡田） 6. キリスト教的人間理解③旧約聖書における神と人間（橋本・岡田） 7. キリスト教的人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（橋本・岡田） 8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根） 9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根） 10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根） 11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根） 12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川） 13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川） 15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川） 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 (予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれによって資料を読んでおく。(30分) (復習) 講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。(30分)</p>
<p>必携書（教科書販売） 『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）, 日本聖書協会, ISBN978-4-8202-1202-7</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 〈必携書〉 『新・私たちの人間論』 ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）, 大学教育出版, 2022年 （初回授業で販売予定。詳しくは新入生オリエンテーションにて説明する）</p>
<p>オフィスアワー 授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。</p> <p>sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根） akiko.hashimoto.sa@gmail.com（橋本）</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3回目の授業は、学部合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、4名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらおう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論〔児〕				【単位数】	2単位
授業コード	10045	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	岡田 紅理子、橋本 晶子、崎川 修、山根 道公				
時間割備考	1年次 児童対象				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
本授業の概要					
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー45%			1/2	
2	期末レポート55%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：「人間論」で何を学ぶか 2. 特別講義：聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） 3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司） 4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（橋本・岡田） 5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（橋本・岡田） 6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（橋本・岡田） 7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（橋本・岡田） 8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根） 9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根） 10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根） 11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根） 12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川） 13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川） 15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川） 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 (予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれによって資料を読んでおく。(30分) (復習) 講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。(30分)</p>
<p>必携書（教科書販売） 『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）, 日本聖書協会, ISBN978-4-8202-1202-7</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 〈必携書〉 『新・私たちの人間論』 ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）, 大学教育出版, 2022年 （初回授業で販売予定。詳しくは新入生オリエンテーションにて説明する）</p>
<p>オフィスアワー 授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。</p> <p>okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根） akiko.hashimoto.sa@gmail.com（橋本）</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3回目の授業は、学部合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、4名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらおう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論〔現〕				【単位数】	2単位
授業コード	10055	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	岡田 紅理子、橋本 晶子、崎川 修、山根 道公				
時間割備考	1年次 現社対象				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
本授業の概要					
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー45%			1/2	
2	期末レポート55%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：「人間論」で何を学ぶか 2. 特別講義：聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） 3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司） 4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（橋本・岡田） 5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（橋本・岡田） 6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（橋本・岡田） 7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（橋本・岡田） 8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根） 9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根） 10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根） 11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根） 12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川） 13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川） 15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川） 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 (予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれによって資料を読んでおく。(30分) (復習) 講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。(30分)</p>
<p>必携書（教科書販売） 『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）, 日本聖書協会, ISBN978-4-8202-1202-7</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 〈必携書〉 『新・私たちの人間論』 ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）, 大学教育出版, 2022年 （初回授業で販売予定。詳しくは新生オリエンテーションにて説明する）</p>
<p>オフィスアワー 授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。</p> <p>okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根） akiko.hashimoto.sa@gmail.com（橋本）</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3回目の授業は、学部合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、4名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらおう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論〔食〕				単位数	2単位
授業コード	10065	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	山根 道公、崎川 修、岡田 紅理子、橋本 晶子				
時間割備考	1年次 食品対象				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー45%			1/2	
2	期末レポート55%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：「人間論」で何を学ぶか 2. 特別講義：聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） 3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司） 4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（橋本・岡田） 5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（橋本・岡田） 6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（橋本・岡田） 7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（橋本・岡田） 8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根） 9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根） 10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根） 11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根） 12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川） 13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川） 15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川） 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 (予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれによって資料を読んでおく。(30分) (復習) 講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。(30分)</p>
<p>必携書（教科書販売） 『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）, 日本聖書協会, ISBN978-4-8202-1202-7</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 〈必携書〉 『新・私たちの人間論』 ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）, 大学教育出版, 2022年 （初回授業で販売予定。詳しくは新入生オリエンテーションにて説明する）</p>
<p>オフィスアワー 授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。</p> <p>sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根） okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） akiko.hashimoto.sa@gmail.com（橋本）</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1~3回目の授業は、学部合同で行う。4~15回目は各クラスの教室で、4名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらおう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論〔日〕				【単位数】	2単位
授業コード	10085	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	山根 道公、崎川 修、岡田 紅理子、橋本 晶子				
時間割備考	1年次 日文対象				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
本授業の概要					
<p>本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー45%			1/2	
2	期末レポート55%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：「人間論」で何を学ぶか 2. 特別講義：聖ジュリー・ピリアートと建学の精神（津田葵学長） 3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司） 4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（橋本・岡田） 5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（橋本・岡田） 6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（橋本・岡田） 7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（橋本・岡田） 8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根） 9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根） 10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根） 11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根） 12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川） 13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川） 14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川） 15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川） 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 (予習) 講義内容および必要な資料を確認し、事前の指示がある場合はそれによって資料を読んでおく。(30分) (復習) 講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。(30分)</p>
<p>必携書（教科書販売） 『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）, 日本聖書協会, ISBN978-4-8202-1202-7</p>
<p>必携書（教科書販売以外） 〈必携書〉 『新・私たちの人間論』 ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）, 大学教育出版, 2022年 （初回授業で販売予定。詳しくは新入生オリエンテーションにて説明する）</p>
<p>オフィスアワー 授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。 sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根） okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） akiko.hashimoto.sa@gmail.com（橋本）</p>
<p>留意事項 ・1～3回目の授業は、学部合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、4名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらおう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。</p>

キリスト教I				単位数	2単位
授業コード	10135	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考	全学科1年次から履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
死にたいと思うほどの人生の挫折の中で聖書に出会い、生きる希望の光を見出し、それを作品に表わした人たちがいる。本授業ではそうした作品を導入とし、新約聖書と遠藤周作『イエスの生涯』をテキストにして、新約聖書の福音書を中心にイエスの生涯と教えについて学び、闇の中にいる人間に希望の光を与えるイエスの福音(喜びの知らせ)とはどのような精神、価値観をもつものかを考察することで、そうしたキリスト教的精神、価値観が、現代社会にあってどのような意味をもつか、理解し、さらに自分自身の問題とどのような関わりをもつか、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、そうした理解に必要なキリスト教の基礎知識を修得する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. キリスト教の原点であるイエスの生涯とその福音について説明することができる。			知識・技能	
2	2. そうしたキリスト教的精神が現代社会にあってどのような意味をもつか、さらに自分の問題とどのように関わるか、自分の考えを述べることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	3. 1・2のために必要なキリスト教の基礎知識を説明することができる。			知識・技能	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・ 毎回課すリアクションペーパー…45% (到達目標 2)			2	
2	・ 期末レポート…55% (到達目標 1・2・3)			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：現代人と聖書、イエスの福音に出会った人たち（遠藤周作、井上洋治、三浦綾子、星野富弘、水野源三等） 2. 『新約聖書』の構成・風土的背景 3. イエスの生誕、クリスマスの意味 4. 洗礼者ヨハネとイエス、メシアニズム 5. 神の国の福音宣教、公生活の開始 6. 奇蹟物語と慰め物語 7. イエスの祈り 8. ユダヤ教指導者層との対決、安息日論争 9. 北ガリラヤへの逃避行、受難と死の予告 10. 死を覚悟したエルサレムへの旅 11. エルサレム入城と最後の晩餐 12. イエスの受難と十字架の死 13. イエスの復活顕現物語 14. 現代人とイエスの福音 15. まとめ・（期末レポートについて） 					

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）毎回、次の授業のテキストの範囲を伝えるので、必ず読んで、関連の聖書の箇所、疑問点などチェックしておくこと（1時間）。 （復習）期末レポートでは、各回の授業で取り上げた重要なテーマをまとめる課題を出すので、毎回授業のまとめをしておくこと（1時間）。
必携書（教科書販売） <必携書> 遠藤周作『イエスの生涯』（新潮文庫）
必携書（教科書販売以外） <必携書> 『聖書』
オフィスアワー ・オフィスアワーおよび質問等の仕方については授業中に指示する。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・授業が一方通行にならないようにリアクションペーパーに毎回、授業の内容に対する意見・質問、またキリスト教の知識についての質問等を書いてもらい、次の授業の冒頭で応答するので、受講者は主体的に授業に臨み、自分の問題として考えること。

キリスト教II				単位数	2単位
授業コード	10145	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>キリスト教は、社会のなかで社会とともに歩んできた。しかし、その道のりは決して平坦とはいえ、国家権力と緊密な関係を保っていた時代もあった。その後、植民地・帝国主義時代や世界大戦を経た時代の変革期を迎え、カトリック教会は信仰の視点に立って、人間社会に対する自らの使命を考察してきた。本科目のねらいは、キリスト教の倫理的立場に親しんでいくことにある。講義では、1891年に公布された回勅(教皇の公文書)『レールム・ノヴァルム』以降に出されたカトリック教会の公文書を参照しながら、現代社会の生命、環境、社会にかかわる諸問題を考察していく。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会にある諸問題に関心を持ち、自分とは無関係ではない事柄として捉えることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	キリスト教倫理が現代社会に果たしうる役割を考察することができる。			思考・判断・表現力	
3	生命、環境、社会に対するキリスト教の倫理的立場を説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4	自分の気づきや考えを他者に伝えるよう言語化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度およびディスカッション 20%			1/3/4	
2	リアクションペーパー 30%			1/2/4	
3	レポート 50%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ①イントロダクション 2. ②キリスト教が示す倫理 3. ③生命①家庭と生殖 4. ③生命②医療技術と人間の尊厳 5. ③生命③自死 6. ③生命④安楽死 7. ③生命⑤死刑制度 8. ④環境①自然と生きる人間 9. ④環境②自然と科学技術 10. ⑤社会①教育と労働 11. ⑤社会②開発と格差、貧困 12. ⑤社会③戦争、暴力と平和 13. ⑤社会④差別と基本的人権 14. ⑤社会⑤他宗教との対話 15. ⑤まとめ 					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）新聞や雑誌でテーマについて関連する記事を読む（30分）。 （復習）講義で参照した聖書や公文書、紹介した書籍を読み、自分が考えたことをメモに残す（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <必携書>『聖書（新共同訳）』もしくは『聖書（聖書協会共同訳）』（いずれも日本聖書協会） <参考書>日本カトリック司教団『いのちへのまなざし（増補新版）』カトリック中央協議会、2021
オフィスアワー 質問、相談は随時メールで受け付けるが、必要に応じて面談の時間を指定する。
連絡先 okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・コロナ禍による授業形式や履修者の理解度・関心度に応じて、授業スケジュールに変更が生じる場合がある。 ・毎回のリアクションペーパーではいくつかの課題を出す。課題において求められていることを的確に理解し、自分の考えを表現できるよう、日頃から自分自身の学習目的を明確にし、社会に対する問題意識を持って授業に臨むこと。

キリスト教III				【単位数】	2単位
授業コード	10155	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	崎川 修、岡田 紅理子、小林 修典、橋本 晶子、山下 美紀、山根 道公				
時間割備考	全学科1年次から履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	3 実験・実習・実技				
本授業の概要					
本講義では、主にクリスマスを中心として、キリスト教の典礼や宗教文化とその意義について多面的に学ぶ。とくに本学のクリスマスミサおよび関連行事の準備と実施を通じて、ミサを中心としたカトリックの祈りの文化についての理解を深め、本学の建学の精神を主体的、協働的に体得することを目指す。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	カトリックのミサや祈りの文化についての基本的な知識を備え、それについて説明することができる。			知識・技能	
2	クリスマスの準備とミサの実施を通して、祈りの場をつくるための実践的な課題に主体的に向き合い、他者と協働してそれらを解決することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	リアクションペーパー 20%			1	
2	クリスマスの準備とミサへの参加 40%			2	
3	レポート 40%			1	
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
クリスマスミサを中心に、本学の建学の精神であるキリスト教における祈りの文化を学び、体得するために、カトリック教会の修道女(橋本)による講義と実習指導、指揮者の大谷文彦氏の特別講義により、ミサの準備と実践を含んだ主体的な学びを取り入れた授業を行う。また、恵まれない子どもたちにクリスマスプレゼントを届ける活動を行っているNPO法人理事による特別講義を通じて、クリスマスの意義を生きた社会的実践のうちに理解することを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(崎川・橋本・岡田) キリスト教の暦と行事(橋本) クリスマスの歴史と意義(山根) サンタクロースになるということ(特別講師 河津泉:NPO法人チャリティーサンタ理事) 日本文化とクリスマス(小林) 児童文化のなかのクリスマス(小林) キリスト教と祈りの意味(橋本) ミサを学ぶ(橋本) クリスマス準備実習(崎川・橋本・岡田) クリスマスの音楽(特別講師 大谷文彦) クリスマスの典礼(特別講師 大谷文彦) ともに祝うクリスマス(ミサへの参加) 愛と祈りを生きる女性(山下) 本学の伝統と祈りの文化(山下) まとめ(崎川・橋本・岡田) 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）授業内で行われるクリスマス行事についてのグループワークに必要な資料を準備する。（30分） （復習）配布されたプリント資料を読み、典礼や聖書の意味内容を確認する。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 『聖書 新共同訳』，日本聖書協会 <参考書等> 授業内で指示する</p>
<p>オフィスアワー 授業内にて指示する。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 sakikawa@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ・定員100名。 希望者多数の場合は、初回の授業までに抽選を行う。 （受講できなかった場合でも、クリスマスミサには参加できるよう、履修学生以外の参加枠を設ける予定である。） ・初回に希望を取り、クリスマス行事の準備と実施のためのグループ分けを行う。 ・各授業の中で、各グループによる準備実習を進めていく予定である。 ・行事を主体的につくりあげていく積極性を備えた学生の受講を求める。</p>

キリスト教学IV				【単位数	2単位
授業コード	10165	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	西井 麻美				
時間割備考	配当年次1は食品栄養学科のみ 2年次以降食品以外も履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
現代社会に対して、カトリックはどのように向き合うことを勧めているだろうか。現代社会の様々な課題(女性の社会参加と教育、持続可能な社会づくり、平和・多文化共生など)に関わって、出されているカトリックのメッセージに着目しながら、これからの社会を生きる指針について考える。文献・資料として、教皇のメッセージなどを参照する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	キリスト教の価値観を自らの生活に生かす省察ができる。			思考・判断・表現力/主体性	
2	現代にひきつけてカトリックの精神について説明できる。			知識・技能	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業態度……50%			1	
2	課題提出(レポート)……50%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション 2 聖書に描かれた女性 3 キリスト教精神を読み解く: 聖母マリア 4 キリスト教精神を読み解く: 神、天使 5 キリスト教精神を読み解く: 霊的存在 6 キリスト教精神を読み解く: 諸聖人 7 たとえ話から学ぶ: 天地創造 8 たとえ話から学ぶ: 命 男女創造 9 たとえ話から学ぶ: 知恵 10 神の慈しみが注がれている被造界 11 開発に関わるカトリックのメッセージ 12 キリスト教精神を読み解く: アンジの聖フランシスコ 13 現代社会を取り巻く課題とキリスト教の考え方 14 家族とキリスト教の考え方 15 若者に関わるカトリックのメッセージ					

定期試験 定期試験（レポート）
試験のフィードバックの方法 留意点について解説する。（資料提示等）
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）テーマについて、関連する資料・文献を各自で調べること。（約1時間） （復習）授業で考えたこと、学んだことを整理しながら、さらに考えたことをポートフォリオにまとめておくこと。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <参考書等> 『聖書』
オフィスアワー 木曜5限（授業担当週については、授業中に指示する。）
連絡先 マナバ確定後、マナバに連絡用スレッドを立てる。マナバ確定前のみmnishii@m.ndsu.ac.jp（マナバ確定後はこのアドには連絡しないこと。色々な授業やその他の連絡が多数届き、混乱が大きいため。）
留意事項 履修定員を70名を上限とし、登録順（申し込み順）で登録者を決定する。授業は対面とマナバフォリオを活用して行う。

キリスト教V				単位数	2単位
授業コード	10175	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	橋本 晶子				
時間割備考	配当年次1は食品栄養学科のみ 2年次以降食品以外も履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	1 講義 / 2 演習				
本授業の概要					
<p>宗教や宗派の違いを超えて、人はそれぞれの方法で共に祈ることができる。宗教は文明に衝突をもたらすと言われるが、その反面祈りは、人間の生や死に直接関わっており、希望を創造し、様々な問題の関係修復の突破口にもなり得ると考えられる。</p> <p>本授業では宗教的事例を分析し、祈る人間の態度、思想、世界観などを提示しながら、祈りの潜在的な可能性を探ることを目的とする。たとえば、困難や危機的状況にある人間は、どのように祈りによって自己の統合を図ろうとするのだろうか。実際に、様々な祈りの手法も紹介しながら、日常生活に活かせる実存的な祈りの習得も目指したい。</p> <p>また、ミッションスクールでの教員希望の学生は、宗教教育の中心である祈りの体験を特に深めてほしい。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	1. 沈黙、静寂の経験を通して、「祈り」において心の動き、焦り、ざわつきなどに気づき、日常生活の中で「祈ること」がいかに、様々な物事、出来事への「洞察」と関わっているかを観ることができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力	
2	2. 授業で配布するプリント資料を熟読することによって、大学の理念でもあるキリスト教精神にもとづく、真なるもの・善なるもの・美なるものを追求し考察することができる。			知識・技能	
3	3. 聖イグナチオ・デ・ロヨラの祈りの方法論である『靈操』の精神にふれながら、祈りのエクササイズを行い「洞察力」の感得を目指し、日々の生活で実践することができる。			主体性	
4	4. アクティブ・ラーニングをとおしてグループで対話し、毎回、リアクション・ペーパーにおいて「経験を言葉化する」ことができる。			思考・判断・表現力 / 主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	リアクションペーパー45%			1 / 2 / 4	
2	レポート 55%			2 / 3 / 4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>カトリックの修道女として、東日本大震災、西日本豪雨災害など被災地での諸宗教の祈り、また東アジアのキリスト教ネットワークと連携し、平和への祈りを継続している。</p> <p>また、現在は青少年の人生の選定における黙想会や祈りの集いに関わっている。これらの経験を踏まえ、学生が講義および日常生活の中で「祈り」を経験し考察するプロセスを通して、自己の存在の深みにふれることを目指したい。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入-祈りとは 2. 祈りの諸相①日常性 3. 祈りの諸相②通過儀礼と人間成長 4. 祈りの諸相③儀式 5. 祈りの諸相④身体性 6. 祈りの諸相⑤非暴力 7. 祈りの方法論：テゼ共同体と祈り 8. 祈りの方法論：ロヨラの聖イグナチオ『靈操』を参考に①聖イグナチオの生涯 9. 祈りの方法論：ロヨラの聖イグナチオ『靈操』を参考に②わたしの歴史/物語/内省 10. 祈りの方法論：ロヨラの聖イグナチオ『靈操』を参考に④選び・識別（特別講師：司祭） 11. 不条理と祈り①自然災害の中で 12. 不条理と祈り②惨禍の中で一祈りのナガサキ、怒りのヒロシマ 13. 不条理と祈り③死に向かう中で 14. 共に祈る体験 15. まとめ-祈りと実存 					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 manaba folioにてレポート総括を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業内容全体に関する「文献表」を配布するので、補助的読書に取り組むこと。 また、授業内で提示する「祈りのエクササイズ」を日常生活の中で実践してほしい。また、出席確認は授業後のリアクションペーパーの提出となるので10分～15分程度の振り返りが必要である。
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書（教科書販売以外） <必携書> 『聖書』各自で用意すること。授業中に指示する。 <参考書等> 授業中に、必要に応じて資料プリントを配布する。
オフィスアワー 木曜日の昼休み（キリスト教文化研究所）またはメールにて。
連絡先 akiko.hashimoto.sa@gmail.com
留意事項 ・本授業を履修する学生は時間厳守のうえ、不要な私語を謹むこと。 ・manaba folioでの連絡事項を必ず確認すること。 ※履修人数が上限に達した場合は、4回生、3回生を優先し決定する。

キリスト教VI				単位数	2単位
授業コード	10185	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	小林 修典、津田 葵、岡田 紅理子				
時間割備考	全学科1年次から履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>・本授業のテーマは、「グローバル社会における教育と社会活動ーカトリック教会の奉仕の現実」である。</p> <p>・カトリック教会がグローバル化の時代の社会の現実的な問題にどのように取り組んでいるかを、事例を通じて学んでいく。とくに、教育と社会活動に注目する。</p> <p>・国際的な奉仕活動のあり方と、その背景にあるカトリック教会の社会教説の考え方について、</p> <p>1) 本大学の設立母体であるナミュール・ノートルダム修道女会の世界各地での活動と、2) 岡山のカトリック教会での外国人支援という、グローバルとローカルな例を通して知る。どのような問題が存在し、それに対してどのような支援がなされているかに注目する。この学びを通じて、グローバル社会の問題にカトリック教会が果たしている役割を知るとともに、さまざまな課題に対して、私たち一人ひとりがどのように貢献できるかを考える。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	カトリック教会およびその一部としてのナミュール・ノートルダム修道女会の、社会問題への取り組みとその伝統について説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	グローバル社会の問題について、多角的な視点から、具体例を交えて説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	身近な地域社会における国際的な社会奉仕のありかたや意義について、具体例を交えて説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	平常点 (ディスカッションへの参加・課題) 30%			1/2/3	
2	課題レポート 30%			1/2/3	
3	期末レポート 40% (定期試験時に提出する。)				
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
<p>日本語以外の言語による授業</p> <p>英語 (外国の講師たちの講義。授業予定一覧・留意事項を参照)</p>					
授業予定一覧					
※は特別講師					
I グローバル社会でのカトリック教会の社会活動					
① 基調講演 グローバル化とカトリック教会 Sr. 津田葵					
② グローバル社会の諸課題 岡田紅理子					
③ カトリック教会の社会教説 小林修典					
II ナミュール・ノートルダム修道女会の世界的な活動					
④ 現代社会における聖ジュリー・ピリアートの精神ー宣教の特徴 小林					
⑤ ナミュール・ノートルダム修道女会の使命と活動 国連・ジュビリー基金 小林					
⑥ 世界各地での宣教活動(1) アフリカ諸国 ※Sr. Ezeonu (英語)					
⑦ 世界各地での宣教活動(2) 北アメリカ(移民の支援・教育) ※Sr. Prefontaine (英語)					
⑧ 世界各地での宣教活動(3) 南アメリカ ※Sr. Spires (英語)					
⑨ ディスカッション (④～⑧の授業のトピック) Sr. 津田、小林、岡田					
III 岡山の地での教育・社会活動					
⑩ ノートルダム清心女子大学の使命 小林					
⑪ 外国人のための福音宣教 ※Fr. Jarut (カトリック岡山教会)					
⑫ カトリック教会での外国人支援 ※Fr. Bordon (カトリック岡山・津山教会)、※Fr. Loi (カトリック水島教会)					
⑬ 多文化共生社会の日本語教育 ※中島正恵(岡山外語学院)、※佐藤恭子(岡山外語学院)					
⑭ ディスカッション (⑩～⑬の授業のトピック)					
⑮ まとめ					

定期試験 期末レポート（定期試験時に提出する）
試験のフィードバックの方法 レポート提出後に講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 前回の講義内容を理解したうえで、毎回の講義に臨む。（30分） 授業後は、講義内容を確認、整理し、ディスカッションに備える。（60～90分）
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） 必要に応じて指示する。
オフィスアワー オフィスアワーは授業中に指示する。
連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項 1) 外国のシスターたちによる講義は英語で行われる。必要に応じて、その前後に、日本語による解説が加えられる。 英語の講義は、授業のあとでYouTubeで公開されるので、繰り返し視聴できる。 2) ディスカッションでは、講義で扱うトピックや問題について、学生が感想や意見を述べあう。 3) 日頃から、グローバル社会の動向に対して関心を持ち、問題意識を高めて授業に臨むことが求められている。

キリスト教学VII				単位数	2単位
授業コード	10205	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	小林 修典、津田 葵				
時間割備考	全学科1年次から履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>・本授業のテーマは、「グローバル社会に生きる聖ジュリーの精神」である。</p> <p>・本大学の設立母体であるナミュール・ノートルダム修道女会の創立者、聖ジュリー・ビリアートの精神、すなわち、善き神の恵みに生き、人びとに奉仕する喜びに思いをいたし、グローバル社会の課題の解決に私たち一人ひとりがどのように参加できるかを考えていくことを目的とする。</p> <p>・世界で活躍しているナミュール・ノートルダム修道女会のシスターたちによる、1) 聖ジュリーの精神と、2) グローバル社会の問題への奉仕と教育活動を通じての取り組みとについての講義を、遠隔授業を通じて体験する。</p> <p>・英語を生で聞くことで、国際的なコミュニケーション能力を高めるとともに、英語での講義に慣れる。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	聖ジュリーの、愛と奉仕の精神について説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	グローバル社会の複雑な問題について、多角的で平等な視点から説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	平常点(ディスカッションへの参加・課題) 30%			1/2	
2	課題レポート 30%			1/2	
3	期末レポート 40%			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
英語(外国人のシスターたちの講義)					
授業予定一覧					
「」は講義題目					
グローバル社会に生きる聖ジュリーの精神					
1 インTRODクシヨン					
2 基調講義 「グローバル社会に生きる聖ジュリーの精神」 Sr. 津田葵					
聖ジュリーの精神とナミュール・ノートルダム修道女会					
3 「聖ジュリーの精神とは ①」 Sr. Judith A Merkle					
4 ディスカッション					
5 「聖ジュリーの精神とは ②」 Sr. Judith A Merkle					
6 「ナミュール・ノートルダム修道女会の使命 ①」 Sr. Lorraine Connell					
7 「ナミュール・ノートルダム修道女会の使命 ②」 Sr. Lorraine Connell					
8 ディスカッション					
グローバル社会とキリスト教					
9 「グローバル化とカトリック社会教説 ①」 Sr. Marie Ann Prefontaine					
10 「グローバル化とカトリック社会教説 ②」 Sr. Marie Ann Prefontaine					
11 「地域・国境を越えた国際感覚」 Sr. Jean Stoner					
12 ディスカッション					
ナミュール・ノートルダム修道女会の国際的使命					
13 「国連での活動を通じての国際的使命 ①」 Sr. Amarachi Ezeonu					
14 「国連での活動を通じての国際的使命 ②」 Sr. Amarachi Ezeonu					
15 ディスカッション					

定期試験 期末レポート（定期試験時に提出する）
試験のフィードバックの方法 レポート提出後に講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 前回の講義内容の理解を確認したうえで、毎回の講義に臨む。（30分） 授業後は、講義内容を確認、整理し、ディスカッションに備える。（60分～90分）
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） 必要に応じて、指示する。
オフィスアワー オフィスアワーは授業中に指示する。
連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp（小林）
留意事項 1) 2回目の基調講義は日本語で行われるが、それ以降の講義は英語で行われる。 英語の講義はあらかじめ録画されている。授業のあとでYouTubeで公開されるので、繰り返し視聴することができる。 2) 英語での講義については、必要に応じて、事前・事後に、日本語による解説が加えられる。 3) ディスカッションは日本語で行う。講義で扱うトピックや問題について、学生が感想や意見を述べあう。 4) 日頃から、グローバル社会の動向に対して関心を持ち、問題意識を高めて授業に臨むことが求められている。

キリスト教学VIII		【単位数】	2単位
授業コード	10215	【科目ナンバリング】	100B1-2340-o2
担当者氏名	高木 孝子		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
本授業の概要			
人生の途上でぶつかる孤独・自己嫌悪・挫折・友情・愛・性などの問題から、私たちにとって生の意味をキリスト教を通して検討していきたい。			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	フェミニスト神学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究していきたい。	思考・判断・表現力	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	受講態度 20%	1	
2	課題の達成度 20%	1	
3	学期末のレポート 60%	1	
4			
5			
実務経験のある教員による科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分との出会い 2. 自己を受容するとは 3. 自己受容 4. 大地のように私たちが包むもの-同伴者イエス 5. 女性の見るイエスの顔 6. イエスの女性に対する振る舞い方-当時の女性たちの地位と役割 7. イエスの見た男女の共生のあり方 8. 心の通いを求めて 9. 友情の真実と哀しみ 10. 愛されない悩みと愛しえない苦しみ 11. 愛と許し 12. 性を考える 13. 信じ合うことの難しさと喜び 14. イエスの姿-愛に満ちた自由人 15. まとめ 			

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 配布するプリント資料に目を通しておくこと。また授業内で扱った聖書の箇所についても、読み直しておくこと。
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外） <必携書> 授業中に資料を配布する。 <参考書等> 聖書 その他は授業中にそのつど指示する。
オフィスアワー 授業中に指示する。
連絡先 kirikyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項 人生の重要な課題である「生の意味」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。

キリスト教学IX				【単位数	2単位
授業コード	10225	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	崎川 修				
時間割備考	配当年次1は食品栄養学科のみ 2年次以降食品以外も履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>「対話としての信仰：キリスト教的生き方の探求」</p> <p>キリスト教の根本的な教えである「隣人愛」の本質を見つめながら、いかにして自己の人生を「他者との対話」の内に深め、歩むことが出来るかを考える。福音書におけるイエスの生き方を基本にしつつ、日常的、臨床的な視点との往復を通じて、信仰や祈りの中に生きることのリアリティに触れてほしい。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. キリスト教と聖書についての基礎的な知識を身につける。			知識・技能	
2	2. 新約聖書、とくに福音書の読解を通じて、そこで示されている「愛」や「いのち」についてのメッセージを理解し、それに基づいた倫理的な判断を行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	3. キリスト教的な生き方の本質を、自分自身の人生の問題に照らして考察し論じることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度、リアクションペーパー:50%			1/2	
2	期末レポート:50%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：隣人とは誰のことか 2. 「よきサマリア人のたとえ」を読む 3. イエスとその時代 4. 福音書のイエス像 5. 「サマリアの女」を読む 6. イエスと対話的霊性 7. イエスにおける「死の準備」 8. 「ラザロの死」を読む 9. 復活とは何か 10. 聖性と神秘 11. 「サウロの回心」を読む 12. 神との対話 13. クリスマスのメッセージ 14. 祈りの方法論 15. まとめ 					

<p>定期試験 期末レポートを提出してもらおう。内容については授業内で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）講義予定に従って、該当する聖書の箇所と配布資料に目を通しておく。（30分） （復習）授業内で扱った聖書の箇所を、その前後を含めて読み直し、ノートをまとめる。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 『聖書 新共同訳』，日本聖書協会 その他プリントを随時配布する。 <参考書等> 授業内で随時紹介する。</p>
<p>オフィスアワー 授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 sakikawa@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、単位を与えない場合がある。 ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、単位を与えないので注意すること。</p>

キリスト教学X				単位数	2単位
授業コード	10235	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
<p>キリスト教の成立と発展の中核にあるのは、イエスという人物を「神の子キリスト(救い主)」とする信仰である。本科目のねらいは、イエスという人物がなぜキリストなのか、というよりも、歴史上に実在したイエスがどのような人物であったのかについて、新約聖書諸文書や映像資料などを活用しながら探究することにある。具体的には、イエスが生きた社会、文化、政治的背景を踏まえつつ、時に皮肉やユーモアを交えたことばと行動によって宗教的政治権力や経済的抑圧に抗い、「弱い」立場にいる人々に寄り添い続けた、喜怒哀楽の感情をもったイエスの人間像に迫っていく。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	イエスのことばと生涯を理解し、自分にとってのイエス像を見出すことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	福音書に記された出来事の史実ばかりを追うのではなく、それが伝えようとする意味を検討することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	イエスのことばと生涯が、現代を生きる私たちに語りかけるメッセージを考察することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	自分の気づきや考えを他者に伝えるよう言語化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度およびディスカッション 30%			1/2/4	
2	リアクションペーパー 30%			1/3/4	
3	レポート 40%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ①ントロダクション 2. 聖書とは 3. ①イエスが生きた時代 4. ①イエスの幼年期 5. ①施礼者ヨハネとの出会い 6. ①イエスが手を差し伸べた人たち 7. ①イエスが起こした奇跡 8. ①ファリサイ派との論争 9. ①困難予告から最後の晩餐 10. ①ゲツセマネの祈りから十字架刑 11. ①イエスの死、復活 12. 講演①わたしにとってのイエス(ある司祭の語り) 13. 講演②わたしにとってのイエス(ある修道女の語り) 14. ①イエスに倣い、生きる人々 15. ①まとめ 					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）事前に指定された聖書箇所を目を通す（30分）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、自分が考えたことをメモに残す（30分）。
必携書（教科書販売） 『聖書（新共同訳）』もしくは『聖書（聖書協会共同訳）』（いずれも日本聖書協会） ※基本的には大学で購入したものを使用する。すでに持っている場合はその聖書を使用してもよいが、新約と旧約の両方が入っているものとする。
必携書（教科書販売以外） <参考書>佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020
オフィスアワー 質問、相談は随時メールで受け付けるが、必要に応じて面談の時間を指定する。
連絡先 okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・コロナ禍による授業形式や特別講義講師の招聘への対応により、授業スケジュールに変更が生じる場合がある。 ・適宜ディスカッションの場を設けるので、自分のこころの動きや得た気づきに自覚的になり、授業に臨むこと。

キリスト教学XI				【単位数】	2単位
授業コード	10245	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2022年度第2期
担当者氏名	出村 和彦				
時間割備考	配当年次1は食品栄養学科のみ 2年次以降食品以外も履修可				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
アウグスティヌス(354-430)の生涯を通じた探究、特に後半生の司教としての働きを通じて見えてくるキリスト教の特徴的な観点とその後の西欧や日本のキリスト教思想に与えた影響をわかりやすく講義する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	アウグスティヌスの思想を通じて、キリスト教の特徴的な観点を理解できるようになること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の積極的応答コメント・小レポート 30%			1	
2	中間レポートと期末レポート合わせて 70%			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 はじめに：授業の進め方：真の宗教を求めて：アウグスティヌスの探究の人生 2 アウグスティヌスの探究とキリスト教との出会い 3 アウグスティヌスから学んで(1) 愛の秩序 『告白録』キリスト教文化の指針 4 アウグスティヌスから学んで(2) 永遠と時間：神の国 5 アウグスティヌス時代の教会の状況(1)：ドナティスト分派と教会の一致 6 司教アウグスティヌスの取り組み：キリスト教徒の生活 7 アウグスティヌス時代の教会の状況(2) ペラギウス論争 8 アウグスティヌスと聖書：キリスト教の暦(1) 9 アウグスティヌスと聖書：クリスマスに向けて(2) マタイ福音書 10 アウグスティヌスと聖書：クリスマスに向けて(3) ルカ福音書 11 アウグスティヌス『三位一体論』『神の国』『エンキリディオン』 12 信仰・希望・愛 キリスト教で信仰する神は父と子と聖霊の三位一体の神である 13 希望を示す(主の祈り)：愛の掟 14 アウグスティヌスの死生観：老いと死への向き合い 15 アウグスティヌスの著作の保存と伝播と受容 まとめ					

定期試験 期末試験（レポート）
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 次の授業までに読むべき教科書の箇所を指定するのでそこを読んだ上で授業に臨むこと。毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書、参考URLを紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。特にレポートには、毎回の小レポート応答と日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的に、発展的な論述を求める。付け焼き刃では間に合わないので、毎回授業を真剣に聴くと共に、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。
必携書（教科書販売） <必携書> 『アウグスティヌス「心」の哲学者』，出村和彦，岩波書店
必携書（教科書販売以外）
オフィスアワー 授業の前後に質問を受け付ける。
連絡先 demura@okayama-u.ac.jp
留意事項 教科書指定箇所を読んで授業に備えること。また関連資料もGoogle Driveにアップするので指定箇所を学習するように努めてください。

キリスト教学XII				【単位数】	2単位
授業コード	10255	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	杉山 博昭				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
本授業の概要					
イエスの教えの中心は、愛である。「隣人を愛せよ」が第一の掟である。隣人とは、誰かという律法の専門家の質問に対して、イエスはよきサマリア人のたとえを話された。私にとっての隣人は誰かではなく、隣人になりなさいとの教えであった。そのことを、実際に隣人愛に生きたキリスト者の行動の軌跡をみるなかで理解する。とくに岡山に関係した動きとカトリック福祉の動きを重視する。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会福祉の理念について、実践の歩みを通じて説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	社会福祉の先駆者の功績について説明することができる。			知識・技能/主体性	
3	社会福祉とキリスト教との関係について説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4	社会福祉実践やボランティア活動への関心を高め、自ら取り組むことができる。			思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の課題 30%			1/2/3	
2	レポート 70%			1/2/3/4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
特別養護老人ホームや障害者作業所で高齢者や障害者の支援に携わった経験から、福祉実践における理念や価値が現場の実践において大切であることを具体的な事例などから説明し、理念と実践を結びつけた社会福祉論を提示していく。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 社会福祉とキリスト教 2 ド・ロ神父と長崎の女性たち 3 石井十次と岡山孤児院(1) 孤児院の創設と展開 4 石井十次と岡山孤児院(2) 石井の思想とその意義 5 アリス・アダムスと岡山博愛会 6 岡山出身のキリスト教社会事業家(1) 山室軍平 7 岡山出身のキリスト教社会事業家(2) 留岡幸助 8 福祉を支える 大原孫三郎 9 知的障害者とともに 石井亮一・筆子 10 カトリックによるハンセン病患者への支援 テストウイド神父 岩下壮一 井深八重 11 病のなかにある人のなかで 戸塚文卿 フロジャック神父 12 賀川豊彦の活動 13 視覚障害者の福祉 岩橋武夫 ヘレン・ケラーの来日 14 キリスト教と保育 15 戦後の復興とカトリック 戦災孤児とカトリック福祉 北原怜子と「アリの町」					

<p>定期試験 社会福祉実践者について探求したレポートを提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 授業終了後も、メール等での質問を受け付ける。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 取り上げる人物に関する参考文献を、事前または事後に各自で読むこと。人物のに関する情報を文献やインターネット等で収集しておくこと。これら事前・事後の学習を各1～2時間程度行うこと。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書（教科書販売以外） <必携書> 教科書は使用しない。授業時にプリントを添付する。 <参考書等> 『聖書』（日本聖書協会の新共同訳または聖書協会共同訳が望ましいが、他でも可）</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワー、水曜日 1時限 質問は随時電子メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 sugiyama@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 人間生活学科社会福祉士課程の学生は、受講することが望ましい。もちろん、他の学生の受講も歓迎する。 教室定員を超過した場合は、最初の授業時に下記のように行います。 ①人間生活学科社会福祉士課程 ②3・4年生でキリスト教学の必要な単位を充足していない人 ①②を優先します。 ③3・4年生でキリスト教学の単位をすでに満たしている人 ③の方に辞退してもらいます。また、2年生より辞退者を募ります。 それでも超過している場合は、その場で2年生を対象に抽選を行います。</p>

キリスト教学XIII				【単位数】	2単位
授業コード	10285	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	1 講義				
本授業の概要					
日本の社会において、子どもたちの人間形成と教育に、キリスト教はどのようにかかわってきたのかを概観する。 日本の児童文化の歩みのうちに、キリスト教精神やキリスト教的ヒューマニズムを探っていく。					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1 さまざまなジャンルの児童文化とキリスト教とのかかわりについて説明ができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	2 聖書物語が子どもにわかるように説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題レポート 20%			1/2	
2	期末レポート 30%			1/2	
3	期末試験 50%			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
① 児童文化とキリスト教					
② 聖書物語に親しむ					
③ 旧約聖書 (1) イスラエルの先祖					
④ 旧約聖書 (2) エジプト脱出・イスラエル王国					
⑤ 旧約聖書 (3) 預言者の時代					
⑥ 新約聖書 (1) イエスの生涯					
⑦ 新約聖書 (2) イエスの行いとことば					
⑧ カトリックの伝統と宗教行事					
⑨ 子どものための聖人伝					
⑩ クリスマスと児童劇					
⑪ キリスト教児童文学					
日本で読まれる西洋の名作 (1) The Happy Prince					
⑫ The Happy Prince とキリスト教精神					
⑬ 日本で読まれる西洋の名作 (2) The Selfish Giant					
⑭ 日本のキリスト教児童文学 (1) 「天までとどけ」					
⑮ 日本のキリスト教児童文学 (2) 「天使とくつした」					

定期試験 期末レポートは期末試験時に提出する。
試験のフィードバックの方法 提出されたレポートは、コメントを付して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・事前に指定された配布資料または教科書を読んでから、毎回の授業に臨む。（1時間～3時間） ・復習として、課題を振り返り、理解を確かにし、課題レポート・期末レポートおよび試験に備える。（1時間）
必携書（教科書販売） 『子どものための旧約聖書』， 菊池多嘉子， サンパウロ 『小学生の聖書 新約』， 木村義男， サンパウロ
必携書（教科書販売以外） 必要に応じて印刷物を配布する。
オフィスアワー オフィスアワーは授業中に指示する。
連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項 自主的かつ積極的に予習・復習をすることが望まれる。とくに、教科書や配布資料を読み込んでおくことが重要である。

キリスト教学XIV				単位数	2単位
授業コード	10290	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2022年度第1期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
本授業の概要					
<p>・本授業のテーマは「日本の教育とキリスト教―自校史研究の試み」である。明治以来、時代の変遷とともに日本の教育にキリスト教がどのような役割を果たしてきたかを、具体的な資料の分析をもとに考察する。</p> <p>・授業は次の2つのサブテーマから成る。</p> <p>1) 明治期から戦後の時代までの、キリスト教と日本の教育との関連についての歴史的概観。</p> <p>2) 具体的な例としての、ノートルダム清心女子大学の成立とその変遷(自校史)。</p> <p>・本学の歴史に関する資料として、アーカイブ資料(例、大学および学生の発行したジャーナルなど)を分析し、教育理念、ナミュール・ノートルダム修道女会のシスターたちの役割、学生の教育体験(例、卒業論文テーマにみる学生の関心、留学など)、学生生活(行事、クラブ活動、就職など)について理解を深める。</p>					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知能・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本の教育に果たしてきたキリスト教の役割について説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	ノートルダム清心女子大学の歴史と伝統について説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	平常点 (ディスカッションへの参加、アーカイブ資料の分析・報告) 30%			1/2	
2	課題レポート 30%			1/2	
3	期末レポート 40% (定期試験時に提出する。)			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>I 日本の教育とキリスト教</p> <p>① イントロダクション キリスト教の人間観と教育</p> <p>② 近代日本のキリスト教史</p> <p>③ 幼児教育とキリスト教</p> <p>④ キリスト教系学校と「教育と宗教の衝突」問題</p> <p>⑤ キリスト教女子教育 プロテスタント</p> <p>⑥ キリスト教女子教育 カトリック</p> <p>⑦ ディスカッション</p> <p>II 自校史研究(ノートルダム清心女子大学)</p> <p>⑧ 岡山のキリスト教の伝統と女子教育</p> <p>⑨ 聖ジュリー・ピリアートとナミュール・ノートルダム修道女会の活動</p> <p>⑩ ノートルダム清心女子大学の成立と発展</p> <p>⑪ ノートルダム清心女子大学の教育理念</p> <p>⑫ ノートルダム清心女子大学での教育実践</p> <p>⑬ ノートルダム清心女子大学での学生生活</p> <p>⑭ ディスカッション</p> <p>⑮ 学生によるアーカイブ資料の分析・報告</p>					

定期試験
期末レポート（定期試験時に提出する）
試験のフィードバックの方法
レポート提出後に講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の講義内容を理解したうえで、毎回の授業に臨む。予習として配布資料を読む。（30分） ・授業後は、講義内容を確認し、ディスカッションやレポートに備える。（1時間） ・⑭回目のアーカイブ資料の分析と発表のための準備を、余裕をもって進める。（計3～4時間）
必携書（教科書販売）
必携書（教科書販売以外）
必要に応じて指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・⑦回目および⑭回めの「ディスカッション」では、講義で扱うトピックや問題について、学生が感想や意見を述べあう。 ・⑭回目の「学生によるアーカイブ資料の分析・報告」では、大学アーカイブの資料（アクセスが許可されているもの）を学生が各自で調査し、その結果をクラスに報告する。方法については授業中に説明する。 ・この授業の定員は20名とする。定員を超える希望者がいた場合は、第1回めの授業で抽選を行う。それ以降の新規登録は行わない。